

# 教育研究発表会

このたび、各学校において進められている校内研究や研修に資することを目的に、研究課において開発して参りました学習モデル等の研究成果について下記の要項で発表会を開催いたします。公務ご多忙の折とは存じますが、奮ってご参加くださいますよう、よろしくお願いいたします。

1. 日 時 : 平成16年2月28日(土)午後1時～4時30分(12時30分より受付)
2. 場 所 : 京都市総合教育センター 永松記念ホール(4F)・第1研修室(1F)・第3研修室(地下)
3. 日程及び発表内容

12:30	受 付 (4階ロビー)		
1:00	<p>全 体 会 (永松記念ホール) &lt;司 会&gt; 直 山 木 綿 子 カリキュラム開発支援センター指導主事                      開 会 の 挨 拶 芝 田 一 広 研究課長                      パネルディスカッション 「確かな教育の営みを継承し発展させるために                      - キーワードで示す これからの京都の教育, これからの学校, これからの教育センター -」                      &lt;パネリスト&gt; 谷 口 賢 司 教育政策監・総合教育センター所長                      森 田 恒 雄 総合教育センター顧問・指導室長                      橋 本 靖 弘 総合教育センター顧問・カリキュラム開発支援センター長                      &lt;コーディネーターおよび分科会方向付け&gt;                      外 川 正 明 研究課指導主事</p>		
	分 科 会	分 科 会	分 科 会
発表会場	永 松 記 念 ホ ー ル	第 1 研 修 室	第 3 研 修 室
2:40	<p>〔小学校 特別支援教育〕                      ADHDおよびその周辺の児童への教育的支援の在り方                      - 連携・協力の充実とそれを支援していくシステムを築くために -                      【小松 晃子 研究員】                      ADHD及びその周辺の児童に、より充実した支援を行うには、担任だけでなく全教職員で取り組むことはもちろん、関係各機関と連携することが必要です。本報告では、校内の協力や保護者との連携に加えて WISC- などの心理検査や専門家からの知見を取り入れて進めた授業を中心に、取り組んだ教育的支援の具体例と、そこで築いた支援システムの実例を紹介いたします。</p>	<p>〔小・中学校 理科教育〕                      「理科大好き」という子を育てる                      - 主体的に問題を解決する子の育成をめざした小中一貫指導 -                      【柴山 敦亮 研究員】                      「理科大好き」という子を育成するためには、基礎的・基本的な内容の確実な習得を図ることが大切であり、そのためには、小学校第3学年から7年間を見通して、つながりのある単元を大きな単元としてとらえて学習指導を進めていくことが必要です。今回は、小・中の指導者と連携して作成した、「電気」についての学習プログラム例(全72時間分)を報告します。</p>	<p>〔小学校 学習指導意識調査〕                      学習意欲を高める学習指導への改善の視点                      - 京都市小学校学級担任670人の学習指導調査から -                      【小嶋 忠行 研究員】                      子どもたちの学習意欲を育てるための指導の工夫改善が求められている中、実際にどのような意図や方法で指導形態や学習集団の編成が選択されているのか、お互いに知り合うことが大切です。本報告では、小学校4年・6年の学級担任の方々にご協力いただいたアンケート調査の結果から、本市の先生方がとらえている学習指導の工夫改善の視点を紹介します。</p>
3:15	<p>〔小・中学校 算数・数学教育〕                      「わかる楽しさ」を追究した算数・数学の試み                      - 小・中連携による算数・数学の一貫した学習プログラム例の開発 -                      【藤野 盛二 研究員】                      基礎・基本の確実な定着とともに算数・数学の学びのよさを感じとる子どもを育成するには、小・中が連携した一貫指導が欠かせません。本報告では、小学校第6学年の「比例」「変わり方を調べて」と中学校第1学年「比例と反比例」の数量関係領域を総計29時間の単元とした小・中を貫く指導計画・指導案・前提テスト・単元評価テスト・ワークシートなどを提示します。</p>	<p>〔中学校 英語教育〕                      「タスク」を取り入れた中学校1年生での英語学習の試み                      - 実践的コミュニケーション能力の基礎の育成をめざして -                      【多田 泉 研究員】                      実践的コミュニケーション能力の基礎の育成を図るためには、授業の中で生徒に実際のコミュニケーションを経験させることが必要です。本研究では、文法シラバスを柱とした本市指導計画の中に「タスク」を取り入れた中学校第1学年の学習プログラム例8ユニットを開発しました。本報告では、三校で実施した実証授業での生徒の様子から、その有効性を報告します。</p>	<p>〔小学校 読書活動〕                      「読んでみたい,もっと読みたい」と思う子の育成をめざして                      - 読書活動計画の作成とその実践例 -                      【寺島 三矢子 研究員】                      読書に親しむ子どもを育てるには、本との豊かな出会いにつながる読書活動を充実させることが必要です。本研究では、国語科の目標「C読むこと」を手がかりに、他の教科でも学習との関連を踏まえて取り組める読書活動計画を作成しました。今回は、各校で活用することができる小学校全学年の読書活動計画と、それを基にした第1～4学年の実践例を報告します。</p>
3:50	<p>〔小・中学校 生活実態基本調査〕                      京都の子どもたちの“今”                      - 小・中学生3000人の生活実態基本調査から -                      【川田 雅康 研究員】                      本研究では、京都の子どもたちの生活と意識の実態を客観的に把握するために、小学校第4・6学年、中学校第2学年、各学年約1,000人を対象に質問紙調査を実施しました。今回は、調査を通して明らかになった「生活のリズム」「家庭での生活の様子や学習」「学校での学習と生活」の実態とともに、そこでの自分や他者に対する子どもたちの意識についても報告します。</p>	<p>〔小学校 学習評価〕                      いま「総合的な学習の時間」を見直す                      - 評価規準設定のキーワードとは -                      【中村 隆 主任研究員】                      この時間の教育的な効果をあげるためには評価規準の設定が重要です。本研究では、個人内評価と観点別学習状況の評価との関連を踏まえた評価の在り方を探りました。今回の報告では、この時間の評価についての本市小学校へのアンケート調査の結果を示すとともに、観点設定から評価規準設定までの考え方や手順、評価方法などについて、具体例を基に提案します。</p>	<p>〔小学校 道徳教育〕                      心に響き心が動く道徳学習                      - 地域とつながり、地域を生かした総合単元的な取組から -                      【田中 尚美 研究員】                      子どもたちの心に生きてはたらく道徳学習が求められています。本研究では、地域と結びついた他の学習活動での子どもたちの心の動きと道徳の時間の指導とを響き合わせる総合単元を構想し、そのプログラム例を開発しました。今回の報告では、地域素材や地域の人の思いを教材化して取り組んだ第2・第4学年の実践例と、全学年の年間指導計画改善例を提示します。</p>
4:20	閉 会	閉 会	閉 会

4. 配布資料:今年度研究課において開発したすべての学習プログラムやモデル案を全参加者に配布します。  
(おそれいりますが、本市立教職員以外の方からは、資料代として1,000円を徴収させていただきます。)
5. 申し込み先:京都市総合教育センター研究課 京都市下京区河原町通仏光寺西入 TEL:075-371-2705 FAX:075-353-4851(直通)

配布資料等の準備の都合上、参加については別紙申込書を2月20日(金)までにFAXでご提出ください。